



ELNEC-J 「エンド・オブ・ライフケアにおける文化への配慮」

5月からスタートしたELNEC-Jの講義内容を、毎月紹介していきます。

9月13日のモジュール4では、エンド・オブ・ライフ・ケアへの文化的影響、文化的側面からのアセスメントやケアについて学びました。

文化とは、私たち人間が歴史の中で形成してきた生活様式や習慣をはじめ、自身の生き方や物事の意味決定の基盤となる考え方といえます。

文化は、その人の健康問題や治療に対する考え方、死生観にも大きな影響を与えています。文化へ配慮したケアを行うためには、患者さんやご家族の文化への理解が必要です。

またチーム医療において、医療スタッフメンバーや自分自身の文化的背景や価値観を理解しようと努めることも大切です。

ELNEC-Jとは

「米国のアメリカ看護大学協会とCity National medical Centerが共同して設立した教育プログラムの日本語版です。エンド・オブ・ライフ・ケアや緩和ケアを提供する看護師に必須とされる能力修得のための系統的なプログラムとなっています。

アセスメントとは

患者さんから得た情報をもとに、看護上の問題点を理論的に分析すること。

世代・性別・宗教・地域性・職業によって、様々な文化があります。

文化が異なれば病気やケアに対する価値観も異なります。



家族が世話をするのが当然
お見舞いに行くべき



他の先生の話をお聞きに行くのは失礼



ご近所に知られないように…
神社へお参りしないと



この病気には、この食べ物を…



- 患者さん、ご家族の意思決定における文化的配慮
- 多職種チームによるアプローチ
- 医療スタッフ自身の文化を知り、他者への影響を理解する



受講生からひとこと



看護師 田原 真美代

私の勤務する病棟は、一般急性期病棟で、急性期と終末期の患者さんが入院されています。終末期を迎える患者さんに対するエンド・オブ・ライフケアを考える上で、患者さんだけではなく、患者さんを取り巻く背景もきちんと考慮し援助を行わなければなりません。患者さんにご家族にとって良い最期を迎えられるよう援助させていただきたいと思っております。

今月のお花

小林華道連盟の皆様から、すばらしいお花をいただいています。

総百案内
Information

